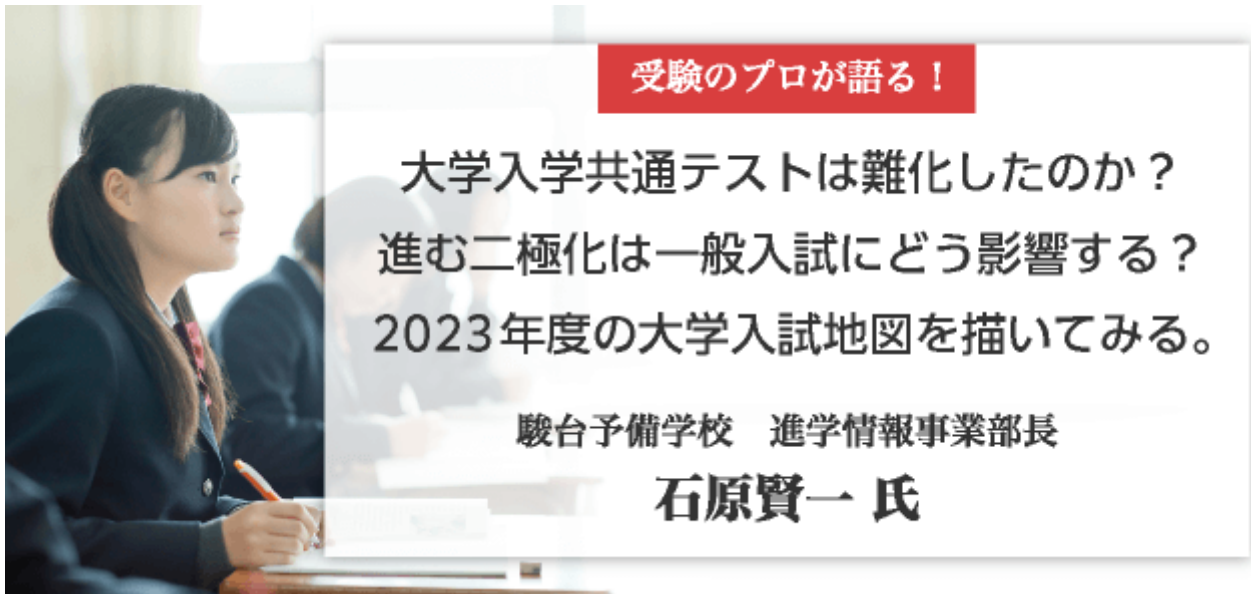




0



受験のプロが語る！

大学入学共通テストは難化したのか？
進む二極化は一般入試にどう影響する？
2023年度の大学入試地図を描いてみる。

駿台予備学校 進学情報事業部長

石原賢一 氏

contents

1 大学入学共通テスト、志願者減と難易度アップの要因

- ▶ 4年連続で志願者が減少した大学入学共通テスト
- ▶ 問題難化の背景には読解力、応用力の欠如がある
- ▶ 新しい出題形態への対策の差が生んだ「数学ショック」
- ▶ 早期の基礎固めと模試へのトライで「読解力」を養おう

2 2022年度入試、人気の系統と志願者が動いた大学は

- ▶ 外国語系が低迷し、法学系志願者が増加
- ▶ 理工系に大きな変化はなく、メディカル系が人気
- ▶ 検定料の割引措置が志願者動向に大きく影響

3 二極化の加速で変わる大学入試地図

- ▶ 一般入試と推薦選抜の選択分岐点は偏差値55
- ▶ 多くの受験生は倍率が下がっても無理をしない
- ▶ 向上心を持たなくなったのは大人たちの責任
- ▶ 推薦選抜合格者は入学後に伸びる

4 2023年度入試の展望と2025年度新課程入試

- ▶ 2023年度入試でも上位層は強気受験を崩さない
- ▶ 2025年度の新課程入試も対策は変わらない

2. 2022年度入試、人気の系統と志願者が動いた大学は

外国語系が低迷し、法学系志願者が増加

一般入試の人気を系統別に見ると、国公立大学、私立大学ともに「理高文低」です。理由の一つに、文科系の受験生の多くが推薦選抜で進学するからです。理科系では推薦選抜の募集人員の割合が小さいので、結果的に理高文低になってしまいます。

文科系では特に外国語系が振るいません。そのためか、私立大学の外国語系は今、どんどん国際系への改組を進めています。2022年度も摂南大学が外国語学部を改組して国際学部に変更しましたし、2023年度も関西外国語大学が国際共生学部を新設予定です。社会学系も人気がありません。特に地方の国立大学の福祉系は厳しかった。教員養成系も厳しかったですね。一方で増えたのは、私立大学の法学系です。これは地方公務員志向が主な要因だと思います。



理工系に大きな変化はなく、メディカル系が人気

理科系で増えているのは、医学部や薬学部などのメディカル系です。新型コロナワクチンへの対応や治療薬の開発など話題が豊富なことが人気の要因でしょう。理工系は2021年度並みぐらいでしょうか。特に増えた分野はなく、2021年度に減らした分が戻った程度という印象です。

女子大学は厳しい状況が続いています。関東の武蔵野大学、関西の京都橘大学などは早くに共学化に踏み切っただけで成功していますし、津田塾大学が関西大学と、昭和女子大学がテンプル大学ジャパンとそれぞれ大学院教育で提携しています。しかし、全体的には今後志願者が増える要素は残念ながら見当たりません。

検定料の割引措置が志願者動向に大きく影響

2022年度入試の志願者の増減で顕著な動きが見られた大学を見ると、共通テスト利用入試を無料にした千葉工業大学と麗澤大学が志願者増。大阪経済法科大学ではすべての検定料を1万円とし、併願検定料を無料にして志願者を増やしました。来年は拓殖大学が1万円入試を実施するなど、検定料を割引する大学が増えると思います。近畿大学は情報学部を新設で増、青山学院大学は志願者を大きく減らした2021年度の反動で増えました。法政大学は共通テストの平均点ダウンの影響で一般方式への駆け込み出願があり大幅増加。東洋大学は共通テスト利用

方式の前期試験で全学部の英語外部試験利用が可能になり、志願者を増やしました。この他、神奈川大学、関西学院大学、立命館大学、東京理科大学、名城大学、東北学院大学が志願者を増やしています。

反対に、中央大学は検定料の特例措置を廃止したことが影響して共通テスト利用方式の受験生が大きく減少。この他、明星大学、摂南大学、武蔵野大学、大東文化大学、関東学院大学、桜美林大学など、中堅大学での志願者減少が目立ちました。

特集トップ

1

2

3

4

次ページ

学校パンフ請求で
giftee Box
10/31(火)まで
最大2,000円分
高校生全員プレゼント

giftee Box
あなたのほしい物が揃ってる

Logos: DOUTOR, Demaecon, GODIVA, etc.

+ その超人気商品からえらべる!

[このサイトについて](#)

[会員規約](#)

[個人情報取り扱い方法](#)

[利用者情報の外部送信について](#)

[お問い合わせ](#)

[教育機関ご担当者様へ](#)

[PCサイトを見る](#)

© DISCO Inc.

